

## 奄美群島喜界島初記録のハゼ科魚類 9 種, およびハゼ科の一種 10 sensu Suzuki (2004) の形態学的特徴

大井真人<sup>1</sup>・中村亮太<sup>1</sup>・是枝侘旺<sup>2</sup>・本村浩之<sup>3</sup>

### Author & Article Info

<sup>1</sup> 鹿児島大学水産学部 (鹿児島市)

MO: k1686451@kadai.jp (corresponding author)

<sup>2</sup> 鹿児島大学大学院連合農学研究科

<sup>3</sup> 鹿児島大学総合研究博物館

Received 04 May 2025

Revised 09 May 2025

Accepted 10 May 2025

Published 13 May 2025

DOI 10.34583/ichthy.55.0\_23

Masato Oi, Ryota Nakamura, Reo Koreeda and Hiroyuki Motomura. 2025. New records of nine gobiid species from Kikai-jima island, Amami Islands, Japan, with notes on morphological characteristics of the indetermined gobiid genus and species. *Ichthy, Natural History of Fishes of Japan*, 55: 23–29.

### Abstract

Nine species of the family Gobiidae were newly recorded from Kikai-jima island, Amami Islands, Japan. Seven of the nine species, viz., *Faviogobius reichei* (Bleeker, 1854), *Faviogobius* sp. A sensu Momose (2024), *Faviogobius* sp. B sensu Momose (2024), *Faviogobius* sp. C sensu Momose (2024), *Parkraemeria saltator* Suzuki and Senou, 2013, *Vanderhorstia* sp. 2 sensu Akihito et al. (2013) and Gobiidae, indet. gen. and sp. 10 sensu Suzuki (2004), were based on specimens, the remaining two species, *Ctenogobiops aurocingulus* (Herre, 1935) and *Lotilia klausewitzii* Shibukawa, Suzuki and Senou, 2012, were based on underwater photographs. Detail morphological description of Gobiidae indet. gen. and sp. 10 sensu Suzuki (2004) was provided. These additional records bring the total number of fishes recorded from Kikai-jima island to 571.

喜界島は奄美大島の東部に位置する隆起サンゴ礁の島である。喜界島の魚類については包括的な調査が行われ、その総括として Fujiwara and Motomura (2020) によって同島から 530 種が報告された。その後も中村ほか (2021)、渋谷ほか (2021)、藤原ほか (2022)、橋本・本村 (2023)、および中島田ほか (2024) によって追加種が報告され、現在、喜界島からは 562 種が報告されている。

筆者らは 2024 年 9 月 21–24 日にかけて魚類相調査を実施し、新たにミナミヒメハゼ *Favonigobius reichei* (Bleeker, 1854)、ヒメハゼ属の一種 A *Favonigobius* sp. A sensu

Momose (2024)、ヒメハゼ属の一種 B *Favonigobius* sp. B sensu Momose (2024)、ヒメハゼ属の一種 C *Favonigobius* sp. C sensu Momose (2024)、ギンポハゼ *Parkraemeria saltator* Suzuki and Senou, 2013、コモンヤツシハゼ *Vanderhorstia* sp. 2 sensu Akihito et al. (2013)、およびハゼ科の一種 10 Gobiidae, indet. gen. and sp. 10 sensu Suzuki (2004) の 7 種について標本に基づく喜界島からの分布を確認した。またオビシノビハゼ *Ctenogobiops aurocingulus* (Herre, 1935) とオドリハゼ *Lotilia klausewitzii* Shibukawa, Suzuki and Senou, 2012 の 2 種について水中写真に基づく喜界島からの分布を確認した。これらは喜界島における初記録であるため、同島の魚類相に関する基礎的知見の蓄積を目的としてここに報告する。ハゼ科の一種 10 に関する形態学的な情報は鈴木 (2004, 2021) と百瀬・尾山 (2025) がわずかに言及しているのみであったため、本研究において同種と同定された標本の形態を詳述した。本研究により、喜界島から記録のある魚類は計 571 種となる。

### 材料と方法

標本の計数計測はヒメハゼ属とハゼ科の一種 10 は百瀬 (2024)、ギンポハゼは Suzuki and Senou (2013) にしたがった。標本の計測はデジタルノギスを用いて 0.1 mm 単位で行った。標準体長 (standard length) は体長または SL、頭長 (head length) は HL と表記した。標本の作成、登録、撮影、および固定方法は本村 (2009) に準拠した。本研究に用いた標本は鹿児島大学総合研究博物館 (KAUM) に保管されており、生鮮時の写真は同館のデータベースに登録されている。

### 喜界島初記録のハゼ科魚類

*Ctenogobiops aurocingulus* (Herre, 1935)

オビシノビハゼ (Fig. 1A)

**写真資料** KAUM-II. 605, 喜界町志戸桶ビーチ, 水深 4 m, 2024 年 9 月 23 日, 大井真人。

**同定** 撮影された個体は頭と体の背側に黒色鞍状斑が

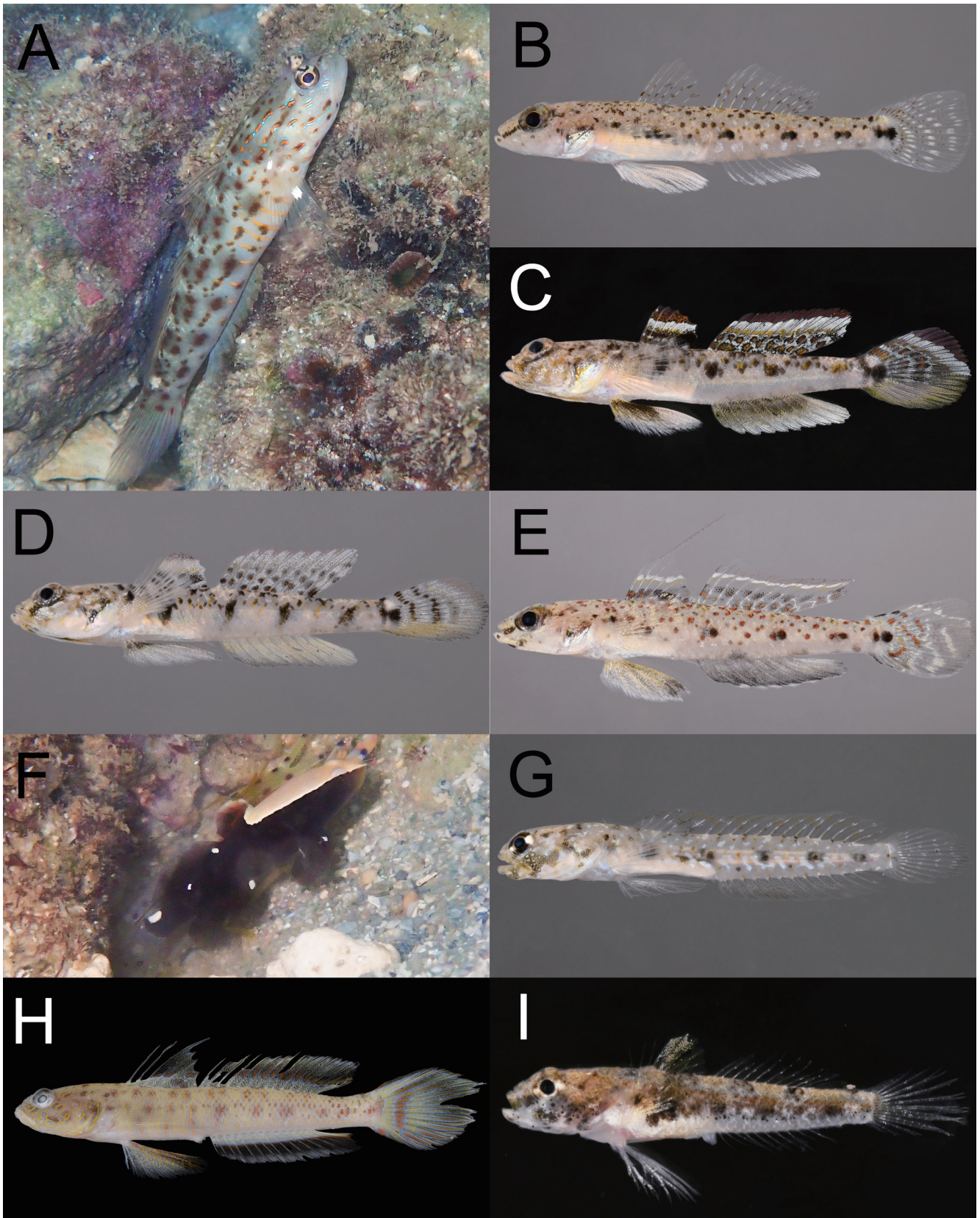


Fig. 1. Underwater photographs (A, F) and fresh specimens (B–E, G–I) of gobies newly recorded from Kikai-jima island, Amami Islands, Japan. A: *Ctenogobiops aurocingulus* (KAUM-II. 605); B: *Faviogobius reichei* (KAUM-I. 211598, 24.9 mm SL); C: *Faviogobius* sp. A sensu Momose (2024) (KAUM-I. 211609, 18.8 mm SL); D: *Faviogobius* sp. B sensu Momose (2024) (KAUM-I. 211607, 16.0 mm SL); E: *Faviogobius* sp. C sensu Momose (2024) (KAUM-I. 211599, 21.2 mm SL); F: *Lotilia klausewitzi* (KAUM-II. 604); G: *Parkraemeria saltator* (KAUM-I. 211567, 18.0 mm SL); H: *Vanderhorstia* sp. 2 sensu Akihito et al. (2013) (KAUM-I. 170940, 30.0 mm SL); I: Gobiidae indet. gen. and sp. 10 sensu Suzuki (2004) (KAUM-I. 211612, 8.6 mm SL).

並ぶこと、胸鰭の白色斑が円形であること、および腹部に黄色横線があることが明仁ほか (2013) と鈴木 (2004,

2021) の示したオビシノビハゼの特徴に合致したため、本種に同定された。



Fig. 2. Collection site of *Faviogobius reichei*, *Faviogobius* spp. A and C sensu Momose (2024), and Gobiidae, indet. gen. and sp. 10 sensu Suzuki (2004) in Kikai-jima island, Amami Islands, Japan.

**備考** 本種は日本国内において屋久島と琉球列島から記録があるが(明仁ほか, 2013; 鈴木, 2004, 2021), 喜界島からは記録されていなかった(Fujiwara et al., 2020; 本村, 2025). 本研究により, 喜界島から新たに記録された.

### *Faviogobius reichei* (Bleeker, 1854)

#### ミナミヒメハゼ (Fig. 1B)

**標本** KAUM-I. 211598, 体長 24.9 mm, KAUM-I. 211610, 体長 11.8 mm, 塩道長浜公園南の小河川 (Fig. 2), 水深 0.1 m, タモ網, 2024 年 9 月 21 日, 大井真人.

**同定** 記載標本は背鰭と臀鰭の軟条数が 8 であること, 背鰭前方鱗が 1–2 であること, 左右の鰓蓋膜が眼の後縁辺部直下で癒合すること, 体側の白色斑が目立つこと, および頬の孔器列が太い帯状であることが明仁ほか (2013) と是枝ほか (2024) が示したミナミヒメハゼの特徴に合致したため, 本種に同定された. 是枝ほか (2024) で示された頬の細い黒色帯は記載標本においては確認されなかったが, 記載標本は 24.9 mm と比較的小型であり, 同文献中で小型個体は黒色帯が不明瞭な場合があるとされていることから個体差と判断した.

**備考** 記載標本は塩道長浜公園南の小河川の河口において, 干潮時に出現した滞筋から採集された. 同地点は表面に薄く泥が堆積しており, 河床は白い砂であった. 本種はタモ網を用いて表面に堆積した泥と一緒に砂をさらうことで後述のヒメハゼ属の一種 A, ヒメハゼ属の一種 C, およびハゼ科の一種 10 と共に採集された.

本種は日本国内において鹿児島県, 種子島, 屋久島, 奄美大島, 加計呂麻島, 徳之島, 沖縄島, 久米島, 宮古島, 伊良部島, 石垣島, 西表島, および与那国島からの記録がある(吉郷, 2014; Motomura and Harazaki, 2017; Nakae et al., 2018; 百瀬, 2022, 是枝ほか, 2024; 本村, 2025). 本研究により, 喜界島から新たに記録された.

### *Faviogobius* sp. A sensu Momose (2024)

#### ヒメハゼ属の一種 A (Fig. 1C)

**標本** KAUM-I. 211608, 雌, 体長 20.9 mm, KAUM-I. 211609, 雄, 体長 18.8 mm, 塩道長浜公園南の小河川 (Fig. 2), 水深 0.3 m, タモ網, 2024 年 9 月 24 日, 大井真人.

**同定** 記載標本は体がやや太短いこと(体高: 体長の 14.9–16.2%; 体幅: 体高の 72.4–77.0%), 第 1 背鰭は鰭条が伸長せず, 後方に 1 黒色斑があること, 尾鰭基底の黒色斑の後端が二叉しないこと, および尾鰭後上部に赤と白の斜帯があることが, 鈴木 (2004, 2021) の示したヒメハゼ属の一種 4, ならびに百瀬 (2024) の示したヒメハゼ属の一種 A の特徴に合致したため, 本種に同定された.

鈴木 (2004, 2021) (ヒメハゼ属の一種 4 として) は, 本種の特徴として雄の腹鰭が一様に黒色で, 雌では中央付近のみ黒色としているが, 本研究において観察した雄の標本 (KAUM-I. 211609: Fig. 1C) では腹鰭基部が黒色であり, 下縁は白く縁取られていた. 百瀬 (2024) は本種雄の小型個体 (体長 16.6 mm) では腹鰭の黒色が淡いことを示している. 記載標本の体長は百瀬 (2024) において示された雄個体よりわずかに大きい (体長 18.8 mm) ことから, 腹鰭の黒色域が拡大したが全体が黒色となるには至っていない状態にあると考えられる.

**備考** 本種はこれまでに千葉県, 種子島, 加計呂麻島, 沖縄島, 石垣島, および西表島から記録されている(林・伊藤, 1978; 鈴木, 2004; 吉郷, 2014; 百瀬, 2022, 2024; Motomura, 2023; 本村, 2025). 本研究により, 喜界島から新たに記録された.

### *Faviogobius* sp. B sensu Momose (2024)

#### ヒメハゼ属の一種 B (Fig. 1D)

**標本** KAUM-I. 211606, 雌, 体長 16.4 mm, KAUM-I. 211607, 雄, 体長 16.0 mm, 阿伝ふれあい公園南のサンゴ礁海岸, 水深 0.5 m, タモ網, 2024 年 9 月 22 日, 中村亮太.

**同定** 記載標本は背鰭前方鱗を欠くこと, 体側の 4 黒色斑が斜めに伸びること, および第 1 背鰭後方に黒色斑があることが吉郷 (2000) の示したハゼ亜科の一種, および百瀬 (2024) の示したヒメハゼ属の一種 B の特徴に合致したため, 本種に同定された.

**備考** 記載標本はサンゴ礁海岸の潮間帯に位置する, 干潮時の水深が 1 m ほどのサンゴ砂が堆積したタイドプールから採集された. 同地点において淡水流入は確認されなかったものの, 隣接するタイドプールには小規模な淡水流入があり, 同地点も淡水の影響を受けている可能性がある. 同地点からは観察標本の他にシマウミヘビ *Myrichthys colubrinus* (Boddaert, 1781) (KAUM-I. 211617) やカザリハゼ *Istigobius ornatus* (Rüppell, 1830) (KAUM-I. 211613) が採集された.

本種は千葉県、静岡県、種子島、加計呂麻島、沖縄島、石垣島、西表島、および与那国島から記録されている（林・伊藤, 1978; 吉郷, 2000; Koeda et al., 2016; 百瀬, 2022, 2024; 本村, 2025). 本研究により、喜界島から新たに記録された。

**Faviogobius sp. C sensu Momose (2024)**

**ヒメハゼ属の一種 C (Fig. 1E)**

**標本** KAUM-I. 211599, 雄, 体長 21.2 mm, 塩道長浜公園南の小河川 (Fig. 2), 水深 0.1 m, タモ網, 2024 年 9 月 21 日, 中村亮太.

**同定** 記載標本は頭高がやや低いこと (12.3% SL), 頭幅が著しく狭いこと (13.5% SL), 左右の鰓蓋膜が癒合する位置は、眼の後縁と前鰓蓋骨後縁の中央を通る垂線付近であること、吻長が短いこと (6.4% SL), 頤に 1 対の縦に長い楕円形の黒色斑があること、および体側の黒色点が赤みがかかることが鈴木 (2004) の示したヒメハゼ属の一種 3, ならびに百瀬 (2024) の示したヒメハゼ属の一種 C の特徴に合致したため、本種に同定された。

**備考** 本種は日本国内において千葉県、静岡県、和歌山県、奄美大島、加計呂麻島、沖永良部島、沖縄島、屋我地島、および西表島から記録されている（鈴木, 2004, 2021; 前田・立原, 2006; 赤池ほか, 2021; 百瀬, 2022, 2024; 本村, 2025). 本研究により、喜界島から新たに記録された。

**Lotilia klausewitzii Shibukawa, Suzuki and Senou, 2012**

**オドリハゼ (Fig. 1F)**

**写真資料** KAUM-II. 604, 喜界町志戸桶ビーチ, 水深 4 m, 2024 年 9 月 23 日, 大井真人.

**同定** 撮影された個体は頭部が大きく、体が短いこと、吻端から体前背面部にかけて白色であること、体が黒褐色であり、尾柄部に白色斑があること、および尾鰭に黒色斑があることから鈴木 (2004, 2021), Shibukawa et al. (2012), および明仁 (2013) の示したオドリハゼの特徴に合致したため、本種に同定された。

**備考** 本種は日本国内において、和歌山県、屋久島、伊江島、水納島、沖縄島、久米島、渡嘉敷島、座間味島、宮古島、下地島、伊良部島、石垣島、および西表島で記録されている（鈴木, 2004, 2021; Shibukawa et al., 2012; 明仁ほか, 2013; 本村, 2025). 本研究により喜界島から記録された。

**Parkraemeria saltator Suzuki and Senou, 2013**

**ギンポハゼ (Fig. 1G)**

**標本** KAUM-I. 211567, 体長 18.0 mm, こーえんはな公園南のタイドプール, 水深 0.1 m, 徒手, 2024 年 9 月 21 日,

渡部泰斗.

**同定** 記載標本は上唇に皮弁状の小突起をもたないこと、背鰭棘条部は黒く縁取られないこと、背鰭と臀鰭の軟条数がそれぞれ 13 であること、胸鰭鰭条数が 14 であること、尾鰭分節鰭条が 8 + 7 であること、吻長が頭長の 13.9% であること、腹鰭長が体長の 22.3% であること、および尾鰭が丸いことが Suzuki and Senou (2013) と是枝ほか (2022) の示したギンポハゼの特徴に合致したため、本種に同定された。

**備考** 記載標本はサンゴ礁海岸の潮間帯に位置する、干潮時の水深が 0.2 m ほどでサンゴ砂が堆積したタイドプールから採集された。同地点には複数の淡水流入箇所があり、淡水の影響を強く受けていると考えられる。

本種は日本国内において奄美大島、徳之島、沖縄島、石垣島、および西表島から記録されている（明仁ほか, 2013; Suzuki and Senou, 2013; 吉郷, 2014; 鈴木, 2021; 是枝ほか, 2022; 本村, 2025). 本研究により、喜界島から新たに記録された。

**Vanderhorstia sp. 2 sensu Akihito et al. (2013)**

**コモンヤツシハゼ (Fig. 1H)**

**標本** KAUM-I. 170940, 体長 30.0 mm, 志戸桶港 (28°21'23"N, 130°01'40"E), 水深 0.3 m, ヤビーポンプ, 2022 年 6 月 29 日, 清水直人.

**同定** 記載標本は体側中央の暗色斑が小さく、尾柄部後端のものを除いて 5 つ以上であること、第 1 背鰭第 3 棘がやや伸長すること、第 1 背鰭第 6 棘基部付近に前後の鰭膜にわたって 1 暗色斑があること、腹鰭は黄金色で青色点が密在し、縁取りはないこと、尾鰭中央の鰭条は伸長しないことが明仁ほか (2013), 鈴木 (2021) の示したコモンヤツシハゼの特徴に合致したため本種に同定された。

**備考** 記載標本はサンゴ礫と貝殻混じりの砂泥底に存在するテッポウエビ類の巣穴をヤビーポンプで吸引することで採集された。

本種は日本国内において神奈川県、和歌山県、八丈島、屋久島、口永良部島、種子島、奄美大島、加計呂麻島、徳之島から記録されている（明仁親王ほか, 1984; 明仁ほか, 2013; Motomura and Harazaki, 2017; Nakae et al., 2018; Mochida and Motomura, 2018; 萩原, 2022; Motomura, 2023; 本田ほか, 2024; 阿部ほか, 2024; 本村, 2025; 本村・佐藤, 2025). 本研究により、喜界島から新たに記録された。

**Gobiidae, indet. gen. and sp. 10 sensu Suzuki (2004)**

**ハゼ科の一種 10 (Figs. 1I, 3; Table 1)**

**標本** KAUM-I. 211612, 体長 8.6 mm, 塩道長浜公園南の小河川 (Fig. 2), 水深 0.1 m, タモ網, 2024 年 9 月 24 日, 大井真人.

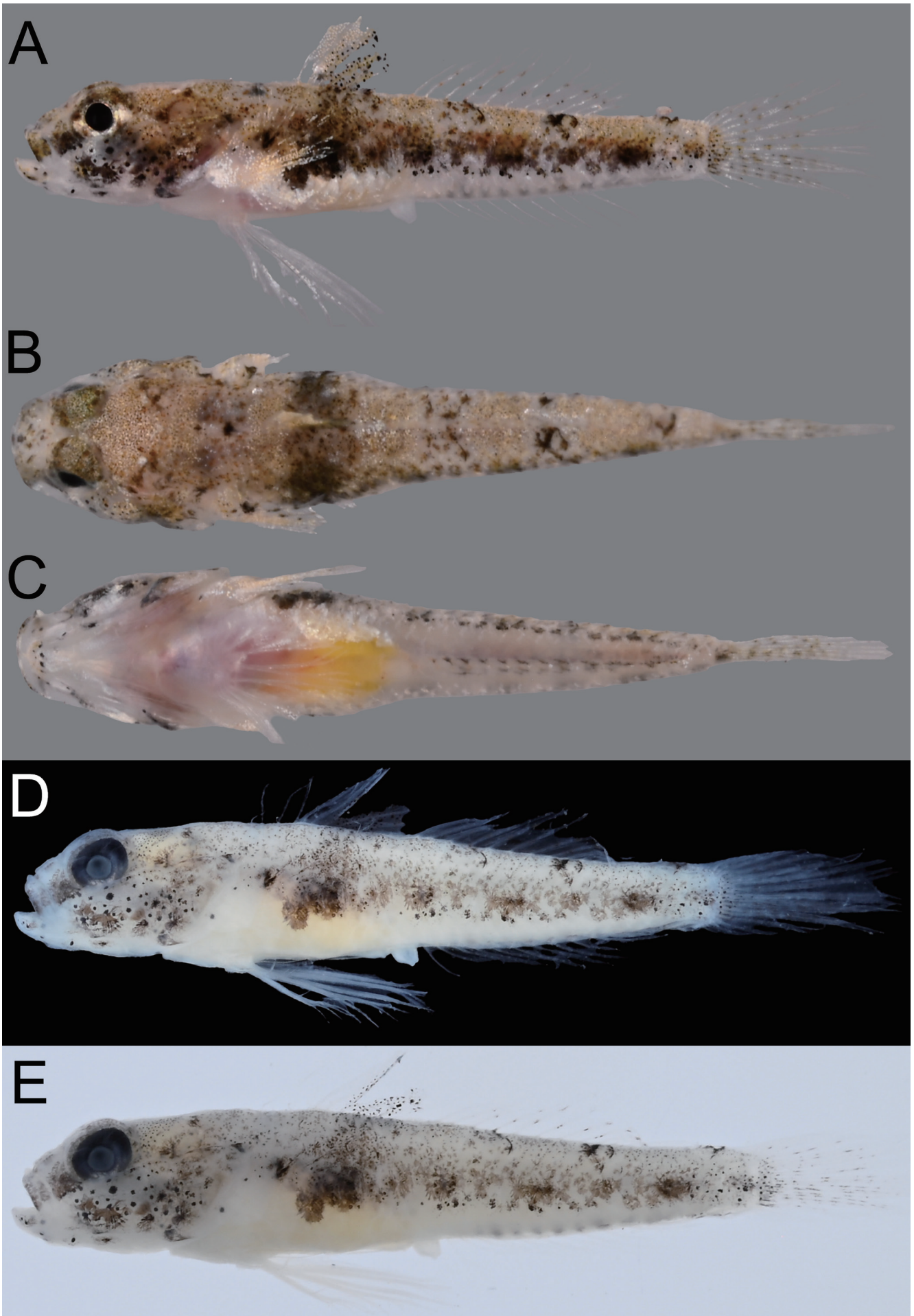


Fig. 3. Fresh (A–C) and preserved (D, E) specimen photographs of Gobiidae, indet. gen. and sp. 10 sensu Suzuki (2004) (KAUM-I. 211612, 8.6 mm SL). A, D, E: lateral view; B: dorsal view; C: ventral view.

**記載** 計数計測の結果を Table 1 に示す。頭部はやや縦扁し、尾柄部は側扁する。頭部は大きい (29.1% HL)。吻端はやや丸みを帯びる。両眼間隔は非常に狭く、眼は背面で隣接する。口は端位で下顎が上顎よりもわずかに突出する。口裂は大きく、上顎後端は瞳孔中心の直下に位置する。眼は大きく、側面からみると眼の上方縁辺部はやや突出する。前鼻孔は後鼻孔の直前に位置し、円形。後鼻孔は瞳孔の中心の延長線上に位置し、形は円形。直径は瞳孔の約 3 分の 1 程度である。肛門は体の中央付近の体腹面に位置する。泌尿生殖孔突起はよく発達し、丸い。

第 1 背鰭は大きく、烏帽子型であり、第 2 棘が最長。起部は胸鰭基底の垂線上に位置する。第 2 背鰭は第 1 背鰭より低く、起部は肛門の直上に位置する。臀鰭は第 2 背鰭よりもやや低く、起部は肛門のわずかに後方で、第 2 背鰭の起部の垂線上に位置する。胸鰭は鋭角三角形で後縁は大きく外側へ湾曲する。胸鰭後端は第 1 背鰭基底中央部に達

する。腹鰭は大きく (体長の 18.6%)、吸盤状になり、その後端は肛門に達する。腹鰭膜蓋後縁は鋸歯状である。尾鰭は円形。

頭部と腹鰭前方域は無鱗で、背鰭前方域にも無鱗域がある。背鰭前方域の被鱗域は後方に大きく湾入し、正中線上に鱗はない。項部側方における被鱗域の前縁は、前鰓蓋骨後縁と鰓蓋の間に達する。上記以外は鰭を除き櫛鱗に覆われる。

**色彩** 生鮮時の色彩 (Figs. 1I, 3A–C) — 頭部と体部は地色がベージュであり、体側中央に濃い黒褐色の 1 縦帯がある。吻部は地色が白で、黒色素胞が散在し、吻部には眼前縁の下方から上顎へ斜走する黒色帯がある。頬は黒色素胞が密集する。体部側面には体側中央に黒色斑が並ぶ。腹部は半透明で内臓が透けており、黄色い卵巣が確認できる。肛門より後方は灰みがかった白色。第 1 背鰭鰭膜は白金色の地色に黒色素胞が散在し、後方に向かうにつれ密度が高くなる。第 1 背鰭の後部から胸鰭基底直後を横断する黒色帯がある。第 2 背鰭は白色半透明な鰭膜の上に、鰭条の先端部と中央部付近を縦走する 2 黒色縦線がある。腹鰭と臀鰭は鰭条が白く (胸鰭下部の鰭条には淡黄色の小斑が散在する)、鰭膜は透明。尾鰭は基部に黒色素胞が密集し、鰭条は白色半透明で、下部の鰭条を中心に濃褐色から黒色の小斑があるが、鰭膜部には模様がない。

**同定** 記載標本は頭部が大きいこと、背鰭軟条数と臀鰭軟条数が 10 本で同数であること、および腹鰭は大きく、腹鰭膜蓋後縁が鋸歯状であることが鈴木 (2004, 2021) の示したハゼ科の一種 10 の特徴に一致したため本種に同定された。

**備考** 記載標本は頭部感覚器官が損傷しており、大部分を観察できなかった。

記載標本は生鮮時に黄色い卵巣が透けて見えること、泌尿生殖孔突起が発達していることから非常に小型 (体長 8.6 mm; 全長 9.9 mm) でありながら成魚であり、成熟している可能性が高い。これは鈴木 (2004, 2021) が示した小型で最大でも全長 20 mm 未満とする本種の特徴に一致している。本種の繁殖期や成熟体長などの基礎生態学的な知見については不明である。

本種は日本国内において奄美大島、沖縄島、石垣島、西表島で記録されている (鈴木, 2004, 2021)。本研究により新たに喜界島から記録された。

**謝 辞**

本報告を取りまとめるにあたり、鹿児島大学総合研究博物館魚類分類学研究室の学生とボランティアの皆様には標本の作製および登録作業をしていただいた。同大学院連合農学研究科の古橋龍星氏には原稿の執筆にあたり、適切な助言をいただいた。同大学水産学部の渡部泰斗氏には

Table. 1 Counts and measurements of Gobiidae, indet. gen. and sp. 10 sensu Suzuki (2004) from Kikai-jima island, Amami Islands, Japan.

KAUM-I. 211612	
Standard length (SL; mm)	8.6
Counts	
Dorsal-fin rays	VI-I, 10
Anal-fin rays	10
Pectoral-fin rays	12
Pelvic-fin rays	15
Caudal-fin segmented rays	8+7
Caudal-fin branched rays	6+5
Lateral scale rows	26
Transverse scale rows <sup>1</sup>	7
Transverse scale rows <sup>2</sup>	6
Transverse scale rows <sup>3</sup>	6
Pre-dorsal-fin scale rows	0
Circumpeduncle scales	12
Measurements (%SL)	
Head length	29.1
Head depth	15.1
Head width	16.3
Snout length	3.5
Eye diameter	5.8
Upper-jaw length	4.7
Body depth (at PFO)	22.1
Body depth (at AFO)	17.4
Pre-dorsal-fin length	36.0
Pre-pelvic-fin length	26.7
Pre-anal-fin length	57.0
Caudal-peduncle length	8.1
Caudal-peduncle depth	3.5
1st dorsal-fin base length	12.8
2nd dorsal-fin base length	26.7
Anal-fin base length	29.1
Pectoral-fin length	12.8
Pelvic-fin length	18.6
Caudal-fin length	15.1

<sup>1</sup>between anal-fin origin and 1st dorsal-fin base; <sup>2</sup>anal-fin origin and 2nd dorsal-fin base; <sup>3</sup>2nd dorsal-fin origin and anal-fin base.

ンポハゼの標本をご提供いただいた。沖縄県八重山農林水産振興センターの清水直人氏にはコモンヤツシハゼの標本をご提供いただくとともに同種の採集環境についてご教授いただいた。鹿児島大学アクアリウムサークル「クロミス」の皆様には採集調査にご協力いただいた。Ichthy 担当編集委員の宮本 圭氏と匿名の査読者には原稿に対して適切な助言をいただいた。以上の方々に深く感謝申し上げます。本研究は鹿児島大学総合研究博物館の「鹿児島・琉球列島の魚類多様性調査プロジェクト」の一環として行われた。本研究の一部は公益財団法人日本海事科学振興財団「海の学びミュージアムサポート」、JSPS 科研費 (20H03311・21H03651・23K20304・24K02087), JSPS 研究奨励費 (DC2: 24KJ1838), JSPS 研究拠点形成事業—B アジア・アフリカ学術基盤形成型 (CREPSUM JPJSCCB20200009), 文部科学省機能強化費「世界自然遺産候補地・奄美群島におけるグローバル教育研究拠点形成」, および鹿児島大学のミッション実現戦略分事業 (奄美群島を中心とした「生物と文化の多様性保全」と「地方創生」の革新的融合モデル) の援助を受けた。

## 引用文献

- 阿部健志郎・清和凌河・坂井陽一・古橋龍星・本村浩之. 2024. 口永良部島から得られた南限更新記録 2 種を含む魚類 57 種の記録. *Ichthy, Natural History of Fishes of Japan*, 45: 1–14.
- 赤池貴大・藤原恭司・上原航知・松岡 翠・藤井琢磨・ジョン ビョル・松本達也・中川龍一・緒方僚輝・是枝伶旺・古橋龍星・望月健郎・飯野友香・出羽優風・石原祥太郎・本村浩之. 2021. 標本に基づく琉球列島初記録を含む沖永良部島初記録の魚類 66 種, およびサザンプラティフィッシュの島内における新産地とカワアナゴ属の一種の形態学的特徴. *Ichthy, Natural History of Fishes of Japan*, 13: 18–35.
- 明仁・坂本勝一・池田祐二・藍澤正宏. 2013. ハゼ亜目, pp. 1347–1608, 2109–2211. 中坊徹次 (編) 日本産魚類検索 全種の同定. 第 3 版. 東海大学出版会, 秦野.
- 明仁親王・林 公義・吉野哲夫・島田和彦・瀬能 宏・山本隆司. 1984. ハゼ亜目, pp. 228–276, pls. 235–258, 353–355. 益田 一・尼岡邦夫・荒賀忠一・上野輝彌・吉野哲夫 (編) 日本産魚類大図鑑. 東海大学出版会, 東京.
- 藤原恭司・ジョン ビョル・松岡 翠・本村浩之. 2022. 奄美群島喜界島から得られた初記録の魚類 28 種および同島から確認された魚類の総種数. *Ichthy, Natural History of Fishes of Japan*, 17: 88–94.
- Fujiwara, K. and H. Motomura. 2020. An annotated checklist of marine and freshwater fishes of Kikai Island in the Amami Islands, Kagoshima, southern Japan, with 259 new records. *Bulletin of the Kagoshima University Museum*, 14: 1–73.
- 萩原清司. 2022. 横須賀市自然・人文博物館所蔵魚類資料目録 (V) 横須賀市自然・人文博物館及び相模湾海洋生物研究会収集奄美群島産魚類資料目録. 横須賀市博物館資料集, 46: 1–127, pls. 1–4.
- 橋本慎太郎・本村浩之. 2023. 奄美群島喜界島から得られたウツボ科魚類ノコギリウツボ. *Ichthy, Natural History of Fishes of Japan*, 39: 26–30.
- 林 公義・伊藤 孝. 1978. 南西諸島のハゼ科魚類について (I). 横須賀市博物館研究報告 (自然科学), 24: 59–82.
- 本田康介・瀬能 宏・和田英敏. 2024. 相模湾産魚類目録 (改訂). 神奈川県立博物館研究報告 (自然科学), 53: 127–218.
- Koeda, K., Y. Hibino, T. Yoshida, Y. Kimura, R. Miki, T. Kunishima, D. Sasaki, T. Furukawa, M. Sakurai, K. Eguchi, H. Suzuki, T. Inaba, T. Uejo, S. Tanaka, M. Fujisawa, H. Wada, and T. Uchiyama. 2016. Annotated checklist of fishes of Yonaguni-jima island, the westernmost island in Japan. The Kagoshima University Museum, Kagoshima. v + 120 pp.
- 是枝伶旺・望月健太郎・清水直人・本村浩之. 2022. 奄美群島から得られた薩南諸島初記録ならびに北限記録のギンポハゼ. *Ichthy, Natural History of Fishes of Japan*, 24: 41–45.
- 是枝伶旺・百瀬 樹・本村浩之. 2024. 薩摩半島から得られたミナミヒメハゼの記録, ヒメハゼ属の一種 *Favonigobius* sp. sensu Matsui et al. (2014) の国内における分布状況および両種の標徴に関する新知見. *Ichthy, Natural History of Fishes of Japan*, 40: 1–16.
- 前田 健・立原一憲. 2006. 沖縄島間川の魚類相. *沖縄生物学会誌*, 44: 7–25.
- Mochida, I. and H. Motomura. 2018. An annotated checklist of marine and freshwater fishes of Tokunoshima island in the Amami Islands, Kagoshima, southern Japan, with 214 new records. *Bulletin of the Kagoshima University Museum*, 10: 1–80.
- 百瀬 樹. 2022. 奄美群島加計呂麻島から得られた日本初記録の *Hazeus ammophilus* サキンハゼ (新称) を含む同島初記録のハゼ科魚類 10 種. *Ichthy, Natural History of Fishes of Japan*, 19: 8–18.
- 百瀬 樹. 2024. 本州から得られたヒメハゼ属魚類 4 種の記録とその識別形質について. *Ichthy, Natural History of Fishes of Japan*, 45: 19–45.
- 百瀬 樹・尾山大知. 2025. 房総半島から得られた暖水性魚類 8 種の記録. *Ichthy, Natural History of Fishes of Japan*, 49: 35–48.
- 本村浩之. 2009. 魚類標本の作製と管理マニュアル. 鹿児島大学総合研究博物館, 鹿児島. 70 pp.
- Motomura, H. 2023. An annotated checklist of marine and freshwater fishes of Tanega-shima and Mage-shima islands in the Osumi Islands, Kagoshima, southern Japan, with 536 new records. *Bulletin of the Kagoshima University Museum*, 20: 1–250.
- 本村浩之. 2025. 日本産魚類全種目録. これまでに記録された日本産魚類全種の現在の標準和名と学名. Online ver. 30. [URL](#)
- Motomura, H. and S. Harazaki. 2017. Annotated checklist of marine and freshwater fishes of Yaku-shima island in the Osumi Islands, Kagoshima, southern Japan, with 129 new records. *Bulletin of the Kagoshima University Museum*, 9: 1–183.
- 本村浩之・佐藤智水. 2025. 種子島と馬毛島から得られた初記録の魚類 24 種. *Ichthy, Natural History of Fishes of Japan*, 52: 1–8.
- Nakae, M., H. Motomura, K. Hagiwara, H. Senou, K. Koeda, T. Yoshida, S. Tashiro, B. Jeong, H. Hata, Y. Fukui, K. Fujiwara, T. Yamakawa, M. Aizawa, G. Shinohara and K. Matsuura. 2018. An annotated checklist of fishes of Amami-oshima Island, the Ryukyu Islands, Japan. *Memoirs of the National Museum of Nature and Science*, Tokyo, 52: 205–361.
- 中村潤平・大富 潤・本村浩之. 2021. 奄美群島喜界島から得られた標本に基づく琉球列島初記録のヒラスズキ. *Ichthy, Natural History of Fishes of Japan*, 14: 13–16.
- 中島田正希・中村潤平・藤田晴大・本村浩之. 2024. 奄美群島から得られた北限記録のハナアマダイ. *魚類学雑誌*, doi: 10.11369/jji.24-014 (June 2024), 71: 229–235 (Nov. 2024).
- 鈴木寿之. 2004. 種の解説, pp. 22–512. 瀬能 宏・鈴木寿之・渋川浩一・矢野維幾. 決定版 日本のはぜ. 初版. 平凡社, 東京.
- 鈴木寿之. 2021. 種の解説, pp. 28–551. 瀬能 宏・鈴木寿之・渋川浩一・矢野維幾. 新版 日本のはぜ. 新訂・増補版. 平凡社, 東京.
- Suzuki, T. and H. Senou. 2013. Review of the sand-diving goby genus *Parkraemeria* (Perciformes: Gobiidae), with descriptions of two new species from the Ryukyu Islands, Japan. *Bulletin of the National Museum of Nature and Science*, Series A, Supplement, 7: 53–66.
- Shibukawa, K., T. Suzuki and H. Senou. 2012. Review of the shrimp-associated goby genus *Lotilia* (Actinopterygii: Perciformes: Gobiidae), with description of a new species from the West Pacific. *Zootaxa*, 3362: 52–64.
- 渋谷駿太・中村潤平・伊藤大介・本村浩之. 2021. 奄美群島北部から得られたフエフキダイ科魚類 4 種. *Ichthy, Natural History of Fishes of Japan*, 14: 21–25.
- 吉郷英範. 2000. 与那国島 (琉球列島) の陸水性魚類. 比和科学博物館研究報告, 39: 165–179.
- 吉郷英範. 2014. 琉球列島産陸水性魚類相および文献目録. *Fauna Ryukyuna*, 9: 1–153.